



辻 達広 議員



二次元コードからスマホで質問の内容や録画が見られます。

救急医療体制の向上で
安心安全の街づくりを

Q 現在の救急搬送のおみがわ医療センターの受入率（応需率）が低く、市民からは不安の声が聞かれるが、市の受け止めと対応はどうなっているか。

A 地域住民からの救急医療の要望が高いことは認識しています。香取おみがわ医療センターでは、近隣の関係組織と連携し受け入れ態勢を整えているとのことですが、また、香取市では救急医療の適正な利用を呼びかけています。

Q 応需率の向上に向けて、市として、また広域的な枠組みの中で、県や医師会、さらには消防機関とどのような協議を進めているのか。

A 香取おみがわ医療センターでは、鹿島地方事務組合消防本部と情報共有を図り、関係機関との連携体制を整えているとのこと。また、平日日中の救急担当医の配置、病棟看護師の応援体制の構築などにより多くの受け入れを可能としています。

Q 医師・看護師の確保、勤務環境改善に向けて具体的にどのような施策を検討しているのか、救急応需率を改善するために今後どのような方策を検討しているか。

A 香取おみがわ医療センターでは、千葉大学等との連携強化や、医師紹介会社の活用、資格や診療実績を反映した給与と制度の構築などで常勤医師の確保に努めています。香取市では看護師確保策として、一定の要件を満たせば償還が免除される修学資金貸付事業のほか、大卒看護師の確保に向け東京情報大学看護学部との連携強化に取り組んでいます。今後は関係機関を交え、大学側とより具体的な方策を協議していきます。

意見・要望 医療機関や福祉施設との連携を進め、医療資源を効率的かつ効果的に活用していくという方向性は、これからの地域包括ケアの実現に向けて大変重要であり、注視し

ていきたいと思っています。
スロースティ構想の推進で住みやすく暮らしやすい街づくりを

Q 慶應義塾大学SFC（湘南藤沢キャンパス）研究所の調査・研究の進捗状況を、市はどのように把握しているのか。

A 学生の活動により、「歴史と文化の連続性」「水郷の自然環境」「伝統的な生活様式」など香取市ならではの魅力が明らかになり、これらはスロースティの理念と親和性が高い資源と認識しています。

Q スロースティ構想を持続可能な地域戦略として推進するために、今後のロードマップや目標設定について、市はどのように検討しているのか

A 市民とのワークショップや巡回展を通じ、「見える化」と再定義を進めていきます。その成果を踏まえ、中期的には市民、大学、有識者との協議の場を設け、国内外の先進都市との交流も視野に、国際スロースティ連盟への加盟も検討していきます。

意見・要望 歴史・文化・自然の「独特の豊かさ」を、スロースティの理念のもとに再定義し、シビックプライドを醸成しながら、持続可能な地域社会へと昇華させていくことが、香取市の未来を切り拓く道筋であると強く感じます。

く ぼ き そう い ち
久保木 宗一 議員



二次元コードからスマホで質問の内容や録画が見られます。

小見川高校で（准）看護師
資格を取得できるように

Q 看護師の確保ができたのは香取おみがわ医療センター附属看護学校があったからで、なくした場合は看護師不足に陥ることとは間違いない。奨学金で看護師を確保するのは30年前の話で現実には無理。都市部の看護学校の卒業生が香取市へ戻ってくるかといえば、ほとんど戻ってこな

A 都市部の病院も看護師不足に陥っており、看護師の獲得競争の中にある。うちの病院に就職すれば、田舎の自治体からの奨学金は即一括で全額返済すると。奨学金をどれだけ増加しても、若い地元の出身者は帰ってこないのが実態で、看護師を奨学金で確保できるというのは夢物語だ。高校で准看護師の資格が取れば、医療センター附属看護学校の生徒を確保できる。小見川高校に医療コースが誕生し、20数名の生徒が学んでいる。医療関係に進みたいとのこと。小見川高校、香取おみがわ医療センター及び千葉県ともよく相談してほしい。小見川高校で准看護師の資格が取得できるよう、ぜひ市長に進めていただきたい。

A 附属看護学校のことから、さらには佐原の准看学校、そして小見川高校の医療コースを含めながら考えなければいけない案件、施策をご提示いただきました。こういった関係機関とは広くいろいろな可能性、そして既存の各種機関をしっかりと反映させながら頑張っていきたいと思っていますので、これらの団体とコミュニケーションを取りながら進めていきたいと思っています。



千葉県立小見川高等学校